

稲・大豆作情報 (NO. 6)

1. 水稻作況情報田の生育概況 (8月6日現在)

品種 場所	移植日 栽植株数	年次	現在の生育状況				概況
			草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本年	89.6	346	13.3	36.9	8月1半旬は、気温は高く(平年より+2.9℃)、降水量はかなり少なく(平年比11.4%)、多照(平年比136%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」、「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」は低い 茎数:「夢しずく」はやや少なく「さがびより」は少ない、「ヒヨクモチ」は多い。 葉齢:「夢しずく」、「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「さがびより」はやや遅れている。 葉色:「夢しずく」は平年並み、「さがびより」は淡く、「ヒヨクモチ」は濃い。
		平年	88.2	371	12.6	36.8	
		平年比	(102)	(93)	(+0.7)	(+0.1)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/m ²	本年	65.4	383	11.9	35.3	
		平年	75.4	470	12.9	38.5	
		平年比	(87)	(81)	(-1.0)	(-3.2)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/m ²	本年	68.6	754	13.4	40.2	
		平年	66.9	687	12.9	37.9	
		平年比	(103)	(110)	(+0.5)	(+2.3)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH25~R5年の平均値)

注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています

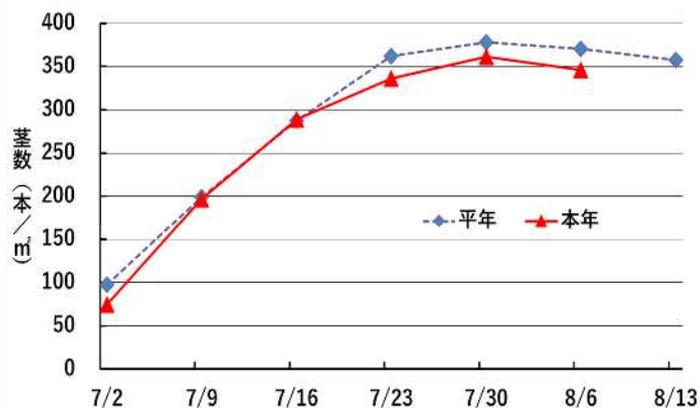


図1 夢しずく茎数の推移

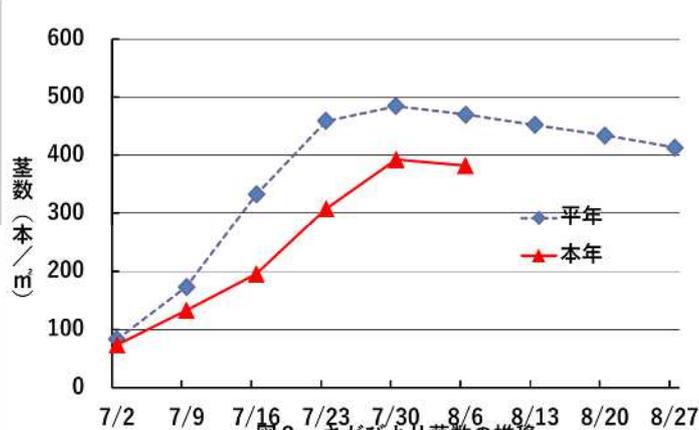


図2 さがびより茎数の推移

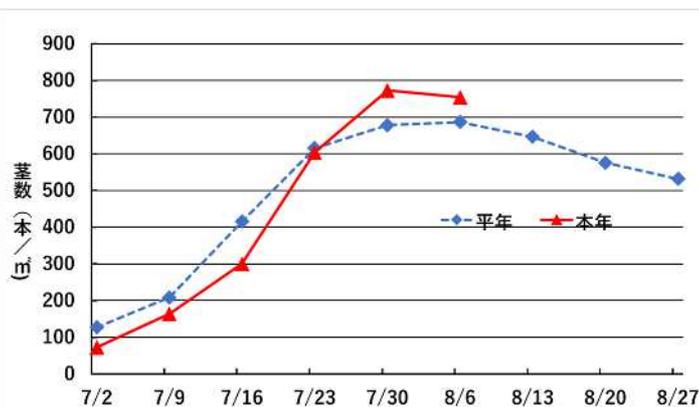


図3 ヒヨクモチ茎数の推移

◆農業試験研究センター米づくり情報 第6号 8月6日(抜粋)

本年産水稻の生育状況(8月6日)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年	91.8	349	12.6	40.8	[気象] 7月30日～8月5日まで ◆平均気温…平年より2.7℃高い ◆日照時間…長い(平年比146%) ◆降水量…少ない(平年比8.1%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」は 少なく、「ヒヨクモチ」でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」は平年並み、 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや多い。 ◆葉色 「夢しずく」はやや濃い、「ヒノヒカリ」 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は 淡い。
		平年	83.0	407	12.6	39.5	
		平年比(差)	111	86	±0	+1.3	
	ヒノ ヒカリ	本年	82.0	471	12.8	37.9	
平年		74.8	513	12.4	37.5		
平年比(差)		110	92	+0.4	+0.4		
6月20日	さが びより	本年	80.7	465	12.6	38.3	
		平年	71.8	505	12.6	38.6	
		平年比(差)	112	92	±0	-0.3	
	ヒヨク モチ	本年	72.6	763	13.2	36.4	
平年		65.9	737	13.0	38.5		
平年比(差)		110	104	+0.2	-2.1		
留意点	○ 草丈は各品種とも前回より10cm～15cm伸長した。生育期間全般が高温であることと、6月下旬と7月3半旬の日照不足により、徒長して以降平年より高く推移している。 ○ 茎数は、各品種とも先週より減少しており、最高分げつ期を迎えている。 ○ 「ヒノヒカリ」は8月2日に幼穂形成始期(平年より2日早い)となっている。「さがびより」は8月8日頃に幼穂形成始期を迎える見込みである。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稻における今後の管理

○水管理 ～ 生育ステージに応じた適正な水管理を行う ～

「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」(5月下旬～6月上旬移植)は、出穂期を迎えている。
- ・普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、幼穂形成期であり、約10日後には、出穂期を迎えると予想される。
- ・穂ばらみ期～穂揃い期まで水の要求度が高いため浅水状態で湛水を保つ。

「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は現在、幼穂形成期であり、「さがびより」では、間もなく幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成期以降は、稲が水を必要とする時期なので、「中干し」を継続している圃場では早急に入水し穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。
- ・「ヒヨクモチ」は、8月中旬頃に幼穂形成期を迎えるので、湛水管理に移行する。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

「ヒノヒカリ」

- ・「ヒノヒカリ」は、幼穂形成期であり、穂肥施用時期を迎えている。
- ・施用時期が遅れないように表1の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長）に基づき、穂肥を施用する。

★「ヒノヒカリ」の穂肥施用のポイント

①出穂前18～20日（幼穂の長さ 3～5mm）に施用。

②草丈が80cm以上で葉色が濃い（SPAD値40以上）場合は施用しない。

③草丈が80cm以下で、葉色が薄い（SPAD値34以下）場合は、2日程度早める。
（出穂前22～20日で幼穂長1～2mm）に施用。

表1.「ヒノヒカリ」穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない
80cm以上	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	1.5	10.0
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない

※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が淡く見えますので留意してください。

「さがびより」

- ・「さがびより」は、間もなく幼穂形成期を迎える。
- ・本年は、平年に比べ草丈が低く、分けつ数も少ないため「さがびより」の穂肥診断基準は、下記の県基準に準じた基準での診断とします。（平坦～山麓まで共通）

★「さがびより」の穂肥施用のポイント

①早くても幼穂5mmを確認してから施用する。

②出穂前18日（幼穂の長さ10mm）に施用。

③草丈が75cm以上で葉色が濃い（SPAD値37以上）場合は施用しない。

④草丈が75cm以下で、葉色が淡い（SPAD値33以下）場合は、2日程度早める。

表2.「さがびより」穂肥診断基準

幼穂形成初期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.0
	3.8以上	39以上	施用しない			
75～80cm	3.0以下	36以下	18～20日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※葉色が濃い圃場や幼穂長が15mm以上になっている圃場は、穂肥は施用しない。

「ヒヨクモチ」

- ・「ヒヨクモチ」は、8月15日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。
- ・穂肥は表3の施肥基準を参考に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断湛水では、土壤中に酸素を送り、根の活力を向上するため落水期間を確実にとる。なお、田面が緩い場合、収穫と麦播種作業の効率化を図るため、落水期間をやや長めにとる。

表3. ヒヨクモチの穂肥施肥基準

	穂肥Ⅰ施用量 (kg/10a)	穂肥Ⅱ施用量 (kg/10a)	実肥施用量 (kg/10a)
施用時期の目安	8月15~17日頃 (幼穂形成始期 幼穂長1ミリ頃)	8月25~27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日~10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※「元肥一発肥料」を施用した圃場で、穂肥Ⅰ~Ⅱの時期に葉緑素計（SPAD）で40を切る場合には窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10~20kg/10a）施用する。

大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

○病害虫情報（発生および防除）

- ・今後も高温が続く見込みであり、高温・少雨の条件下では害虫の発生が多くなるため、発生状況を確認し、適期防除を実施する。

① 【トビイロウンカ】

- ・ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23~、7/1~、7/10~）が確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測は、図1のとおりで、防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半）である。
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

② 【コブノメイガ】

- ・県内のライトトラップで断続的に誘殺（6/23~、7/1~、7/12~）されている。
- ・一部の圃場では成虫と幼虫が確認されており、止葉を含む上位3葉に被害が発生すると減収につながるため、発生状況に注意する。
- ・コブノメイガの発生予測は、図2のとおりで、防除適期は幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）である。

- ・上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。





図1 トビイロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

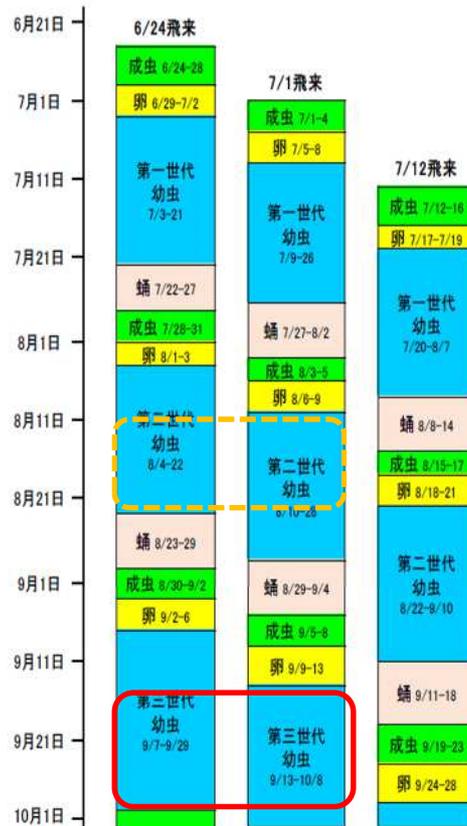


図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期
1回目 8/14~8/20
2回目 9/12~9/20

暫定防除時期
1回目 8/10~8/22
2回目 9/13~9/29

③ 【斑点米カメムシ】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂10日前までに畦畔除草を行う。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

表4. 各品種別の草刈り時期の目安

品種名	出穂期 (平年)	出穂10日前
夢しずく	8/16	~8/6頃まで
ヒノヒカリ	8/27	~8/17頃まで
さがびより	8/30	~8/20頃まで
ヒヨクモチ	9/10	~8/31頃まで

※出穂期 (平年) は、佐城管内における情報田のデータの平均値

④ 【紋枯病】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

3. 大豆における今後の管理

1) 大豆の生育状況

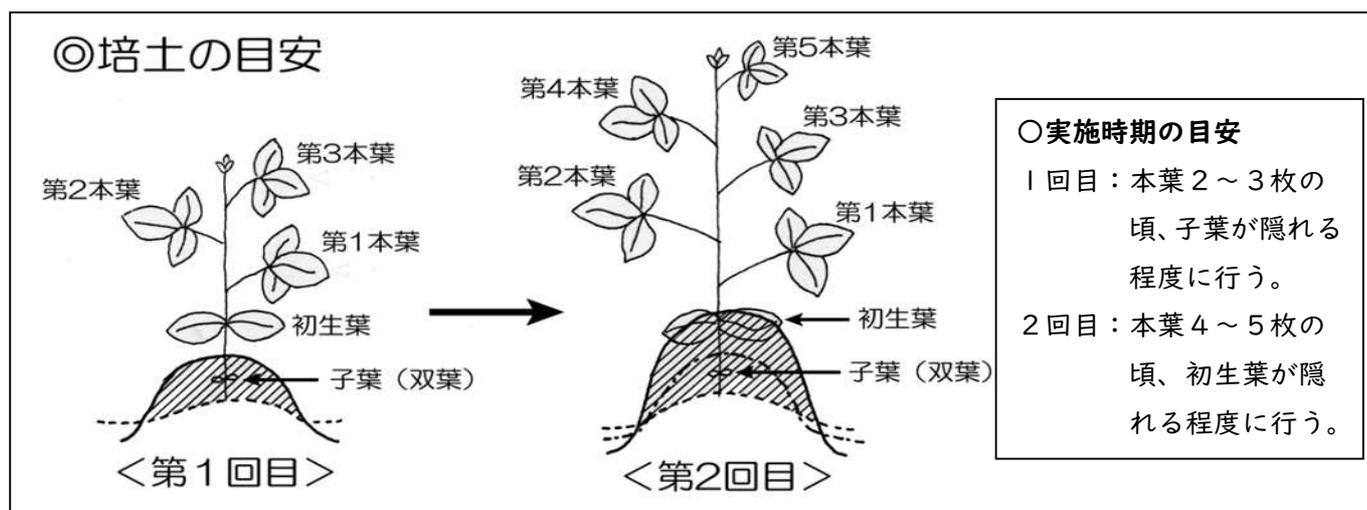
7月上旬頃に播種された圃場では、本葉5～6葉程度となっている。

7月下旬頃に播種された圃場では、本葉2～3葉程度となっている。

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

- ・7月上旬播種：すでに2回目の培土時期を迎えている。本葉が4～5枚開いているのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで培土を行う。
- ・7月下旬播種：間もなく1回目の培土時期を迎える。本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。その後、本葉が4～5枚開いたのを確認したら、2回目の培土を初生葉が隠れる程度まで行う。



※降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草防除を行いましょう。

○干ばつ対策について

1) 乾燥で大豆が萎れ始めている圃場での対応

- ・梅雨明け後、降雨がほとんど見られず圃場の土壌が乾燥することにより、大豆の草冠が夜間も立っていたり、萎れ始めている圃場（写真1）が散見されます。このような圃場では、夕方以降にうね間灌水（※注1）を検討する。
- ・週間天気予報を見ると、晴天が続く予報のためコルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効である。

※注1：うね間かん水後は雑草の発生が多くなることから、早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

◆大豆生育期間中に必要な水量

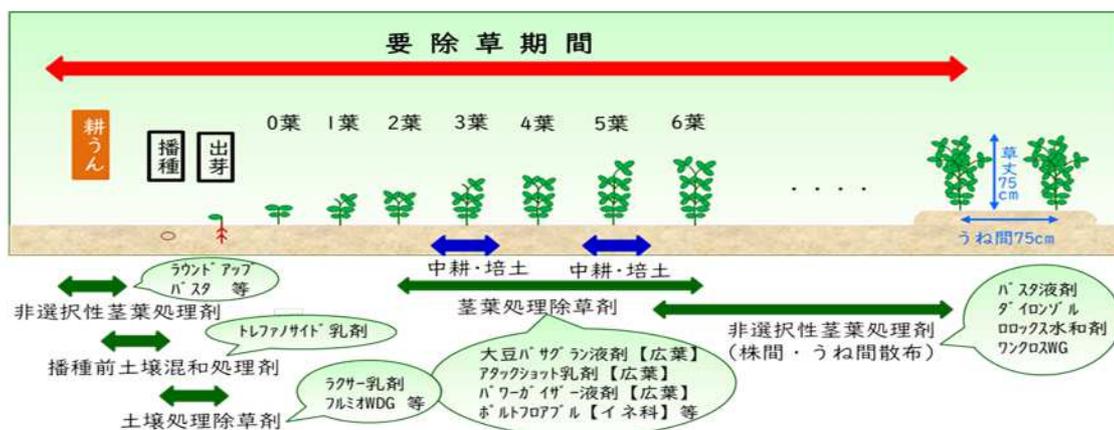


写真1 乾燥により萎凋した大豆

○雑草防除（生育期処理）

- ・雑草の発生が多い圃場では、中耕培土を実施し雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤（下記の目安を参照）を散布する。
- ・アサガオ類・ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内への侵入防止に努める。また発生が認められる圃場は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

■除草技術と実施時期の目安



○病虫害対策（発生及び防除）

① 【ハスモンヨトウ】

- ・夏季が高温少雨で経過した年は、発生が多く増殖に伴う被害拡大が懸念されるため、フェロモントラップの捕殺数や圃場毎に白変葉の増加に注意する。
- ・播種期が早い圃場では、例年8月中旬頃からハスモンヨトウの幼虫が散見され始める。
- ・防除適期は、若令幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中令幼虫以上（体長約2cm以上）になると、防除効果が低下する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている時は、再防除が必要である。

② 【オオタバコガ・ウワバ類】

- ・気象予報では高温少雨が予測され、ハスモンヨトウと同様に、多発生の条件となっている。
- ・葉に大きな穴が開いた株が目立ち、周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高くウワバ類やシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンに感受性が低下しており、使用を避ける。

令和6年産水稲・大豆生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

